

現状の課題

外国語科の学習指導に不安を感じている教員が多いため、誰にでも実践可能で効果的な指導方法を確立する必要がある。

具体の取組の内容

○ 指導計画の作成と学習指導の工夫

- ・「Classroom Englishリスト」を昭和中学校区の3小学校で共通に活用。
- ・外国語科の学習指導過程の基本的なモデル例と各学年のねらいを明確にした「CAN-DOリスト」を作成。
- ・目的、状況、場面に応じた表情、声のトーンや大きさ、Eye Contactの在り方、文法に結びつく表現の提示の仕方（主語は赤色、述語は青色等）等について、中学校と共通に実施。

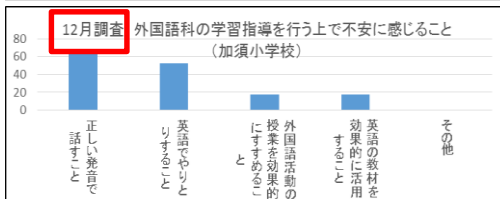
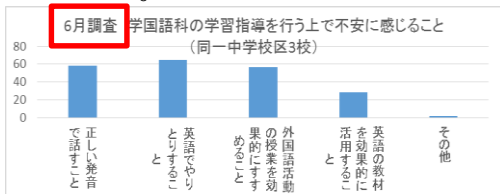
○ 指導体制の構築（中学校との連携）

- ・円滑な接続に視点を置いた合同授業研究会の実施。
- ・学習指導・指導計画等に係る調整会議の実施。
- ・指導者を招聘しての合同研修会の実施。
- ・「外国語教育中核教員（分掌に位置付け）」による中学校との調整のための打合せを実施。（随時）



成果①

○授業の効果的な進め方、教材の活用について、教員の不安が減少した。



成果②

○外国語活動の学習指導過程の基本的なモデル例を作成・活用したことで、教員の英語の技能にかかわらず、均質的な指導が行えるようになった。

○各学年のねらいを明確にした「CAN-DOリスト」を作成したことで、学びの連続性を意識しながら授業を行うことができるようになった。

今後の課題・方向性

- ICTを有効活用し、児童・生徒の興味・関心をより高め、指導の効率化や言語活動の充実を図る。
- 一人一人の「話すこと[やり取り]」の力を評価する具体的な方法を確立する。
- 新学習指導要領の趣旨に示されたカリキュラムマネジメントに基づき、他教科の学習や学校行事と関連付けた指導を工夫すると共に、英語が堪能な地域人材の活用等、指導体制の充実を図る。